

タナカファーム

安全な卵を提供したい...このシンプルで熱い想いからつくられたタナカファームの卵は、飼育環境、餌、水にとことんこだわって作られています。そのこだわりは半端でなく、まぎれもない本物を追求されており、生産者の顔が見える国産大豆、大麦、小麦をはじめ、鳴門ワカメ、納豆粉他をブレンドし、飲み水はなんとイオン水!ワカメなんか、人が食べているよりおいしかったです! (実は少しおすそ分けしてもらいました)

それから、何よりも、草。鶏が草を食べるといったイメージがなかったので、これには驚きました。冬はイタリアングラスという冬に成長する草を栽培し、不足分は、近くの田んぼの遊休期間に、そこで生える草を鶏の餌に提供していただくかわりに鶏糞を肥料として提供されており、これは、田んぼの循環にも繋がり、まさに、一石二鳥で「すごいなあ」って感心したら、「こんなん、昔の物々交換やん!」って、飄々と笑うオーナーのあまりの自然体に、またまた感心しました。これだけ、厳選され想いのいっぱいあった卵なら、アトピーなんてへっちゃら!生でも大丈夫です。



▲大切に育てられた鶏 ▲イタリアングラス ▲こだわりの有精卵



タナカファームの卵を購入ご希望の方は、お問い合わせください。

タナカファーム

- 大阪府南河内郡河南町上河内110
- 電話 0721-93-5007
- http://www.nau-now.com/tanakafarm/page3.html

みはらトピックス

このコーナーは、美原区にお住まいの方及び美原区内にお勤めの方を対象に、実施されているイベントなどをご案内するものです。

堺市立みはら歴史博物館

(M・Cみはら)をご存知ですか?

堺市美原区黒山に、美原区の歴史を紹介する「M・Cみはら」があります。正式名称は、堺市立みはら歴史博物館と言います。皆さんご存知でしょうか。本館では、美原区の特徴ある歴史文化遺産の2つのテーマを展示しています。一つは、中世に活躍した鍛冶技術者集団の「河内鍛冶師」と24領の鉄製甲冑が出土した「黒姫山古墳」をテーマにした展示を行っています。映像や模型などを使い、分かりやすく、展示をしているほか、年2回のミニ展示、年1回の特別展を開催しています。

7月15日(火)から9月15日(月)まで、夏季ミニ展「みはら発掘速報展(仮題)」を開催いたします。最近、美原区内で行われた発掘調査で出土した遺物を展示します。この機会に是非とも、ご覧頂いて、新しい美原区の歴史に触れてみませんか。

堺市立みはら歴史博物館



- 【開館時間】午前9時から午後5時まで
ただし、展示室の入場は、午前9時30分から午後4時30分まで
ホールの利用がある場合は、午後9時まで
- 【入館料】200円(特別展の場合は金額変更)
65歳以上・中学生以下及び障害者の方は無料
- 【休館日】月曜日(祝日のときは開館し、火曜日休館)、
祝日の翌日(土・日曜日、祝日のときは開館)
年始年末(12月29日から1月5日)・臨時休館
- 大阪府堺市美原区黒山281番地
- 電話 072-362-2736 ※詳しくは、お問い合わせください。
- ホームページ <http://www.city.sakai.osaka.jp/hakubutu/mcmihara/>



SPACE DESIGNER

空間を創造する者たち

高松伸



織陣 I・II・III

~その造形が訴えるもの~

織陣 I



今回は高松伸氏の初期の代表作でもある、京都市上京区の「織陣」を紹介します。この建物は、老舗の帯問屋の本社社屋として建てられました。とても老舗の間屋さんの建物には見えず、いかにも個性的で入りこくような感じでした。1981年に「織陣 I」が建てられ、82年に II が、86年に III が増築されました。御影石を全面に使用した「織陣 I」のファサードは強烈な印象の造形を与えられており、強い存在感があります。シンメトリーなデザインと、一つ目のような窓から繋がるエントランスは違う世界への入り口のような感じさせます。1984年に日本建築家協会新人賞を受賞しており、高松伸氏が建築家として注目される先駆けとなった作品です。

2回の増築を重ねた建物は、高松伸氏の建築のデザインの移り変わりを見ることが出来る貴重な建築です。「織陣 II」は、I と III に挟まれて現在は確認し辛いですが、I と III のバイパス的存在になっています。「織陣 III」では機械的で先鋭的なデザインへ変化しており、とても同じ建築家が設計したとは思えないほどです。尖がった角のようなものが壁面上部に配置され、その真ん中にある赤いドーム型のデザインと建物全体の雰囲気は灯台をイメージさせます。黒・白・赤という原色の色使いによりシャープで近代的な印象をうけます。現在では伊豆蔵明彦氏による FACTORY MUSEUM「ひなや工房・サンムーン京都西陣本店」として使用されています。

織陣 III



▲「織陣 III」の頂上部分です。光を放つ灯台の上のようです。夜になると角のところからは光がこぼれ出るといいます



▲「織陣 III」の右側の地面から突き出ている2つのサメの背びれのようなものです。トップライトだと思うのですが、夜になるとここからも光があふれ出るはずです



▲「織陣 I」の左側面です。シンプルなデザインに丸窓が印象的です



▲わずかに確認できる「織陣 II」の側面です。メカニカルなデザインに変化しており、IIIの設計に繋がっていることがわかります